



環境が花の色を変える

6月4日に行われた運動会には多くの保護者の方々のご参観をいただきありがとうございました。新しくなった校庭で、4年ぶりの全校での開催。どの子もこれまで取り組んできた力を十分に発揮してくれました。また、ほかの学年の競技や演技も真剣にたくさん応援することができました。運動会を通して一回り成長した子どもたち。これからも楽しみです。保護者の皆様におかれましては、校庭の都合上、立ち見による競技ごとの優先観覧スペースの入れ替えをお願いしましたが、ご協力ありがとうございました。また、子どもたちだけでなく学校にもたくさんの温かいお言葉をいただき本当にうれしかったです。今後も子どもたちの学校生活の様子をお見せできる機会を作っていきたいと思います。

6月中旬に関東地方も梅雨入りしました。朝、晴れていてもだんだん雲行きがおかしくなってきました…。空を見上げる機会が増えてきました。すっきりしない天気が続いていますが、この時期を待っていたかのように通学路の道々には梅雨の代名詞でもあるアジサイがみずみずしく咲いています。

一般的にみられるアジサイの多くは、土のpH(酸度)によって同じ品種でも花の色が変わってきます。これは、アジサイに含まれるアントシアニンという色素が働いていて、土に含まれているアルミニウムを吸収すると青色に発色します。逆にアルミニウムが吸収されないとピンク色に発色されます。アルミニウムは酸性の土壌に溶けやすく、アルカリ性の土壌には溶けにくいので、酸性の土には青色の花が、アルカリ性の土には、ピンク色の花が咲くというわけです。ですから土のpH濃度次第で今年青々と咲いたアジサイが翌年はピンクがかった紫に花の色が変わってしまうことはよくあることなのです。ちなみに白く咲くアジサイもよく見かけますが、白花系のアジサイはもともと色素を持たない品種なので土の酸性・アルカリ性に影響されないそうです。

「環境が花の色を変える」

私たちの生活の中でも環境の要因で成長は大きく変わってきます。

中央林間小学校の子どもたちには皆、やさしく思いのある子に育ってほしいと願っています。乱暴な言葉遣いの中で過ごしているといつの間にか子どもも真似してしまうものです。丁寧な言葉遣いを心がけるとともに思ったことを自由に表現できる教室の雰囲気、子どもたち同士を認め合える教室環境をつかっていこうと先生たちは日々心がけています。温かみのある教室で子どもたちの優しさが、さらに色づいていくことを楽しみにしています。 (校長)

